

3-11

ドッグセラピーを通じての利用者 ADL、QOL の向上

介護現場における新たな生活リハビリテーションの試み

QOL の向上

アニマルセラピー

特別養護老人ホーム^{たいようえん}大洋園

介護副主任 ^{とみざわ} 富澤 ^{むつみ} 睦美

介護副主任 山崎 正美

東京都青梅市今井 5-2440-141

生活相談員 中村 雅俊

TEL 0428-31-3666

E-mail tokuyo@taiyoen.or.jp

FAX 0428-31-3614

URL <http://www.taiyoen.or.jp>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

東京都の西端、青梅市という緑と太陽に恵まれた地域で、昭和 59 年 5 月に 100 床の特養として根をおろし 23 年。現在では 160 床のベッドに加え同市内に多くの在宅サービスをも多角的に提供し、地域福祉の貢献に日々全力で取り組んでおります。

＜取り組んだ課題＞

○アニマルセラピーを通じての利用者 ADL、QOL の向上
○取組前の ADL 等の状況は以下の通りである。

- ・起立についてはつかまり立ち可能。
- ・ベッドからのトランスファーは全介助
- ・歩行については介助歩行可能程度（パーキンソン病有り）
- ・移動は車椅子（ベッド付）で自走可能
- ・機能訓練は週 1 回、両膝温熱療法及び下肢関節可動域訓練並びにロープ歩行訓練（4.5m 程度）3 往復程度実施
- ・食事…主・副食ミキサー食
- ・入浴形態…リフト浴（座位式浴槽）
- ・積極性…一人でいることを好み、他者との交流を好まない。

○入所前の自宅生活において、本人が犬を飼っており、また、動物がとても好きな事から、その好きな犬と触れ合う事による、回想法等の効果の期待と犬の散歩という動作を通じ、歩行能力の維持、活性化を図る事を目的とした。

＜具体的な取り組み＞

- 警察犬訓練学校協力の元で、施設と併設のデイサービスセンターで月 1 回のドッグセラピーを行った。
- 利用者複数名を有意抽出法（利用者の ADL 等を判断し、無作為抽出法によるサンプリングが不適切だと考えた為）によりサンプリングし、その内適切と考えられる利用者と中型犬同伴による歩行訓練の実施。

＜活動の成果と評価＞

- ①食事（主食）…ミキサー食 ⇒ 粥食
- ②食事（副食）…ミキサー食 ⇒ きざみ食
- ③入浴形態 …リフト浴 ⇒ 介助浴
(歩行しての入浴が可能となった。)
- ④積極性 …自ら他ご利用者様への積極的な話し掛けや、施設内の行事、クラブにも参加するようになった。
- ⑤移動、歩行 …車椅子移動 ⇒ 屋食の居室、食堂間の移動時、歩行器使用で歩行が可能になった。
- ⑥その他 …施設において全体的にご利用者様の笑顔が増え、雰囲気明るくなった。

＜今後の課題＞

- 当施設でのドッグセラピー開始後 2 年程が経過し、ドッグセラピーの在り方、今後の進め方等について再検討の時期に来ている。同一プログラムによるマンネリ化防止などの対策も必要である。
- 今回は 1 名だけの実施（試験的な実施）であったので、他のご利用者様にも同様の効果が期待出来るのかどうか等、個々のレベルに合わせて検討を加え、リハビリテーションを行っていかなくてはならない。
- ドッグセラピーの実施場所まで来る事が困難であり、特に移動が困難な居室対応者にも、参加出来るよう、居室で行う等の工夫が必要である。（現在は施設内のホールにおいて行っている為）